

# 宝物はすぐそばに

校内研通信

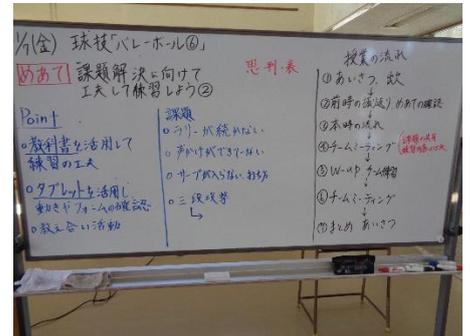
第22号

R7.11.7

発行者:校内研担当 仲村智

## 『平凡な俺よ下を向いてる暇はあるのか』～ハイキュー!!より～

11月7日(金)3校時、2年8組にて緑間陽先生が体育(球技:バレーボール)の授業を公開しました。本時のねらいは、チームで練習を工夫して課題の解決に向かうことです。本校研究テーマ副題にある『学ぶ楽しさを見いだす授業づくりを通して』を真正面から受け止めた授業を体現するかのよう、生徒は最初から最後まで主体的に楽しそうに活動できた1時間となっていました。前時までのチーム及び個人の課題を、教科書や撮影した動画をもとにグループでしっかり自己認識させることで、その後の練習に意味を持たせ、生徒の主体的な学習活動がきっかけとして、振り返りを通してチーム及び自己の技能が向上していく実感もできたことでしょう。自己評価活動と技能の向上、主体的な学習活動が相互作用する授業でした。個人的にバレー部のスカウティング目線で生徒観察していたことをお許しくださいね😊 陽先生、素敵な授業をありがとうございました。

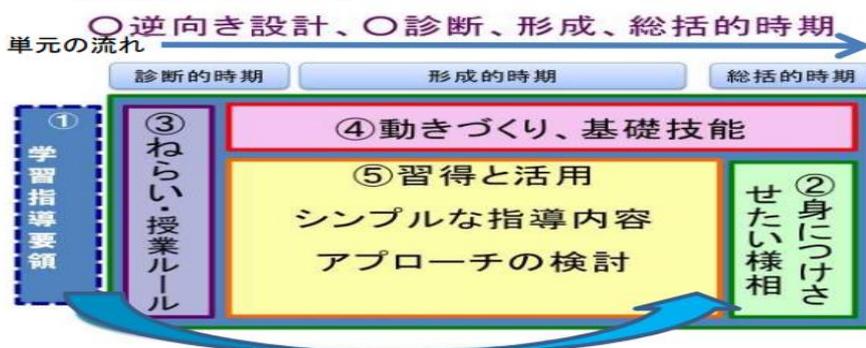


### 体育・保健体育の授業づくりで大切なこと

### 身に付けさせたい力を明確にした単元構想

単元全体を見通した授業計画を持たずに授業に臨むと、生徒も教師もその場しのぎの授業(学習活動)となってしまう「活動あって学び無し」の授業となってしまうこととなります。大変ではありますが、**身に付けさせたい力(単元終わりの生徒の姿)を明確にした単元構想を練ることが、生徒にとっても教師にとっても楽しい体育・保健体育の授業や学び・育ちの実感につながっていきます。**

#### 【単元構想イメージ】



- ① 学習指導要領の指導内容から
- ② 実態に応じ、単元で身に付けさせたい力(単元の終わりの生徒の姿)を明確にする
- ③ 単元のねらいオリエンテーションの内容を決める
- ④ 毎時の前半でどのような基礎感覚運動(ドリルゲーム)をやるか考える
- ⑤ 毎時の指導内容と学習過程を検討する